

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100355		
法人名	(有)栄友		
事業所名	グループホーム ゆう Aユニット		
所在地	上川郡東川町北町4丁目9-26		
自己評価作成日	平成26年9月30日	評価結果市町村受理日	平成26年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、大雪山を遠望でき、公園に隣接した立地で広い敷地に畑や遊歩道を設けている。利用者様の自立を支援したいという施設長の思いから、リハビリや作業療法、レクレーションに力を入れている。また、各居室にトイレを設置し、誘導によるトイレ介助をして、自立を促している。各居室には出窓が設置され、窓の外には実なる木を植え、その実を秋に収穫することを利用者様は楽しみにしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaisokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kihon=true&JigyosyoCd=0173100355-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成26年10月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、旭川市の東方向にある東川町の閑静な住宅地の4000坪に有料老人ホームとサービス付高齢者住宅、介護サービスの居宅介護支援事業所、訪問介護、訪問看護、通所介護を併設した平屋建ての広々とした建物の2ユニットのグループホームである。施設の周りには散歩用の遊歩道が整備され、また建物をりんごや柿の木で囲んでおり、イベントが開催できる広い中庭も整備され、「自然豊かな大地での安らぎのある『家』として」の理念を実践している。施設長の看護師経験と専門知識を活かしたケアは、特に体調の変化に対応した救急医療や24時間体制の医療連携により看取りまで行い、職員は救急救命講習を全員受講するなど人材教育に熱心である。地域との連携では、法人主催で行う夏祭りは、参加者250名に及ぶほど盛大な地域のイベントになっており、地域密着型サービスの地域の拠点となる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掘んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掘んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングや常日頃から理念に触れ、毎日の生活の中で職員と確認し合いながら話し合っている。申し送りノートを活用し、小さな気付きを全職員が共有し、細部にわたって理念に沿った実践ができるように努めている。	事業所の理念は、事業所内に掲示し、パンフレットにも表記して周知に心掛けている。また、職員は毎月のミーティング等で確認し合い、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事には、地域の方々にも参加して頂き、地域の行事にも参加している。また、施設で食す米は近所の農家から分けて頂いている。時々、色々な方から野菜等頂いている。	事業所主催の夏祭りは、地域の方など250名の参加があり、和太鼓やフリーマーケット、ボランティアなど地域の資源を活用した相互の交流を日常的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学に来られた方に対して、対応方法など説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は町議員、民生委員、家族、地域住民、職員を構成員として2ヶ月に1度開催されています。会議では、事業所の運営状況や事故報告、行事案内などがなされ、活発な意見交換を通して運営に活かしています。	運営推進会議は、町担当者、民生委員、町内会の方、家族などが参加して定期的に開催し、運営状況の報告や意見を聞き、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は定期的に行われ、意見を聞く機会となっているが、会議結果の議事録を開催都度に家族へ配布して、報告する事を期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町職員とは運営推進会議や町役場に出かけ、ホームの相談やサービスの質の向上についても話合っている。	運営推進会議に町担当者が参加しており、運営状況の報告や意見を聞いている。また、日頃から運営についてや質的向上の勉強会開催などの相談も行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不穏者に対する見守りや対応の仕方についての話し合いを徹底して、玄関施錠を撤廃し、身体拘束廃止に取り組んでいる。	身体拘束をしない指針やマニュアルを整備し、外部の研修会にも参加して、事業所内では伝達講習で共有し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を受けており、職員間に於いても見過ごされることがないように、また、研修で学んだことを会議などで報告し、認識度を深めることによって防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受け、学んだことを活かせるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項の説明やサービスの内容を説明し、理解と同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設け、また、重要事項説明書に苦情窓口を記載しています。また、家族の来訪時や運営推進委員会で家族からの意見要望をお聞きし、利用者様からは日常の関わりの中で、言葉や言動を把握して、運営に反映させています。	意見箱を玄関に設置し、ホーム便りを毎月発行して、運営状況や利用者の状況を報告している。家族からの意見は面会時に聞いているが、クリスマス会などの行事の際に家族との懇談会を開催して意見を聞く機会を設け、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のコミュニケーションや毎月のスタッフ会議、定例会議で職員の意見や提案を聞き、サービスの向上につなげている。	月1回スタッフ会議と定例会議を開催し、必要に応じて、職員の個人面談を行うなどして、職員からの意見や提案を聞いて、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の導入により、各職員の得意とする分野、努力や成果等を把握し、意欲を持って働いてもらえるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や知識、技術レベルに合わせた外部研修を実施し、サービスの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や包括連絡会議に参加し、情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始時、利用者様も緊張や不安が強く、職員との信頼関係も築けていない為、施設内で迷うことの無いよう常に目を配り声かけを多くし、安心出来る職場である事を確認して頂く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申込があると出向いて面接し、家族に対しても何に困っているかを聞き、信頼関係を深め、必要な時期に入所できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の希望を伺い、必要とされている事に対し、できる限りの支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様、職員が自ら助け合う家族的雰囲気大切にしている。入居者様は豊かな人生経験、知識を多く持ち、職員が教えられる事が多い。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節行事に参加して頂き、本人と一緒に過ごして頂きながら、悩みや要望を聞いている。変わった事が有れば電話連絡をし、対応等を話し合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃のコミュニケーションの中で、馴染みの場所の把握に努め、ドライブに訪れたりしている。以前住んでおられた家の近所の方の面会もある。	希望があれば、職員同行で買い物に行っている。紅葉のドライブなどを兼ねて利用者の自宅を訪問するなど馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が楽しく暮らしていける様に、職員が間に入りコミュニケーションを取っている。又、孤立しない様に、それぞれの利用者様の得意なことや特徴を把握することに努め、同じ趣味などを持った利用者様同士の関係作りなどにも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも相談や依頼があれば適切に対応する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの中での希望、意見はケアの中で取り組み、本人本位で対処している。	アセスメントシートを活用して、本人の思いや意向の把握に努めている。ひとり一人の状況を職員間で共有し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを、ご本人や家族より聞き、ホームの暮らしに生かしている。入居されるまで、サービス利用の経験や有無も聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、昼、夕の申し送り、一人ひとりのケース、記録、バイタル、排泄等、心身の状態を確認し、一日の変化等を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議や定例会議で職員の意見や、家族、ご本人の要望を取り入れ、介護計画作成者が介護計画を作成すると共にモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っています。	本人や家族の意見や要望を取り入れ、スタッフ会議で検討し、職員全体で打合せして、モニタリングを行い、介護計画を作成している。特に看護からの視点も含めたケアを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人ひとりの日々の状態や状況を観て、職員間で話し合い、常に利用者様の立場に立って考え行動している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズも違えば、支援内容もプラン内容も違うため、個々の利用者様に合った柔軟な対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会に参加して頂き、諸問題を検討し交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については、利用者様、ご家族の方の意向を尊重した上で、かかりつけ医への受診を支援している。又、かかりつけ医との連携を図り、緊急時でも適切な医療が受けられる。	かかりつけ医の受診は看護師の職員が同行し、受診内容は家族に報告している。また、利用者の主治医の個別の往診もあり、緊急時などの対応も主治医と連携した支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時には、利用者様のかかりつけ医に相談を行っている。又、利用者様が体調不良の場合は、職場看護師が適切な処置や病院受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に主治医に相談し、指示を頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族の方には、当事業所の「看取り」についての姿勢は伝えている。	重度化や終末期に向けた事業所の対応は、本人や家族と打合せして、同意書を交わしている。重度化した場合は看取りケアのプランに移行し、24時間対応の医療連携で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を全職員が受講しており、発生時には対応マニュアルを基に動くことを確認している。又、AEDも完備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年に2回実施し、昼間だけではなく、夜間想定での訓練も行われているが、災害時の地域協力体制は調整中です。救命救急講習は全員受けていて、スプリンクラーは平成22年10月設置	火災訓練は、マニュアルを整備し、家族や地域の方の協力で、夜間想定も含め年2回実施している。備蓄は米80俵など用意しており、発電機は併設のサ高住に整備して、災害に準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周りに他利用者様がいる時は、声かけの仕方に注意している。居室には、声かけを行ってから入るなどプライバシーを確保している。	各室にトイレが設置されているが、入口から見えないように配慮して、プライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の利用者様に応じ、自己決定できるような会話を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居様が希望を言いやすい雰囲気を作り、何を食べたいか？など聞き、職員と共に調理している。又、季節に応じて野外へ花見、ドライブへ行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等は出来る方は自分で選ばれ、不具合な場合は援助している。美容、理容は二カ月に一回毎に訪問理容を利用し、髪型はご本人の意向を尊重している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや後片付けなど、ご本人の意見を尊重し、職員と共に行うことによって、楽しい時間になるように支援している。	朝食と夕食は職員が利用者と一緒に準備や調理をしているが、昼食のみ専門の調理員が行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の既往歴や健康状態、摂取量を記録し、バランスの良い食事を提供している。水分においても、夏季はこまめな水分摂取を心がけている。又、食事と思うように摂れない利用者様に対し、エンシュア等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けが必要な人、介助が必要な方を把握し、毎食後、おやつ後に実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定時誘導を心がけている。夜間と日中ではオムツやパット等の使用量を減らすなどの調整もしている。	利用者個々の排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握して、職員間で共有し、トイレでの排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レク活動に軽い運動や体操を行ったり、食事に乳製品や繊維質の食物を取り入れている。それでも便秘が解消されない場合は下剤など薬物療法でコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に合わせ、ゆったりと入浴して頂いている。時々入りたがらない方もいるので、ご本人の気持ちを聞き、入りたい日に変更している。	入浴は週2～3回行っている。入りたがらない利用者には、ひとり一人に合った対応や工夫をして個々にそった支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は散歩、日向ぼっこ、体操、レク等に参加してもらうが、夜間、精神症状が強くと眠れない時は、専門医に相談しながら薬を服用されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は、職員が見られる所に保管、医師の指示通り服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常、掃除、洗濯物たたみ、食事作りなどすべてにおいて、出来る作業を分担し行うことで、利用者自身の役割が確認できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴や散歩の他に花見等ドライブの機会を増やしている。利用者様の気分転換が図れ、季節感を肌で感じることができるため、積極的に支援している。	施設の周りの遊歩道や中庭での散歩や、パラソルを立てての日向ぼっこなど、日常的に行っている。また、盛大な夏祭りや紅葉・お花見のドライブなど、季節を感じる外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で年賀状を出したり、電話の要望があれば支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度などの空調管理の配慮は怠らないようにしている。又、季節感が感じられるよう室内を装飾したり、花を飾るなどの工夫をしている。	共用空間は、天窗があり、採光や風通しもよく、季節に合った飾りなどがあり、床暖のゆったりとした空間である。広い中庭や施設の周りの遊歩道、また中庭の木々は果樹でリンゴや柿など季節を感じる植林をして、利用者の居心地をよくする工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では利用者の安全や安心感を十分に確保するために、物の配置や利用者様の配席に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からタンスや布団、生活用品を持ってきている。部屋には孫の結婚式やご家族皆さんで撮った写真などが飾っている。	居室には、トイレと洗面台、大きな収納、ナースコールなど利用者に配慮した設備がある。利用者は、使い慣れた家具や馴染みのものを持参して居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫はしているが、利用者様本人が「職員にしてもらおう」という意識が強い方もいる。残存能力を發揮してもらえるように努めていきたい。		